

(別紙1)

事業報告書

事業名	大規模災害時における要支援者の避難について考える避難訓練と研修会
申請分野	団体指定寄附・分野指定寄附（ 障害者 分野）
目的	<p>当初の目的である「災害時誰一人として（特に障害を持つ人たち）が取り残されることのない、この町のあり方を考えてみる」に従って、</p> <p>◆実際に自治会や大学生たちの協力が得られるか。</p> <p>◆講演会にあっては本会会員以外の方たちの関心を呼ぶことができるのか。</p> <p>会員のみならず、広く町の人々の参加を頂き、実効性のある事業とする。</p>
事業実施の地域及び対象者	<p>1, 避難訓練：本会運営の「グループホームみんなの広場六条」高松市六条町1388-2・西隣の駐車場（GHの駐車場でテントを張る） 入居者・自治会の協力者・香川大学指導教官並びに香大生（高松市機能別分団）</p> <p>2, 講演会：本会会員と高松市を中心に災害時要支援者避難に関心を寄せる人たち</p>
具体的な事業内容	<p>1, 避難訓練</p> <p>日時 令和4年11月20日（日）午前9時30分～12時</p> <p>場所 高松市六条町1388-2 グループホームみんなの広場『六条』と西隣駐車場</p> <p>参加者 計43名 GH入居者6名 世話人11名 自治会19軒 香川大学関係 7名 香川大学指導教官 高橋真理氏（香川大学四国危機管理教育 地域連携推進機構）教官 香川大学高松市機能別分団 6名（小松・中村・勝浦・松家・小池・土岐さん）</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間に地震が起きたことを想定して窓に暗幕を張り、暗闇状態をつくった。（会報NO260 p6 p7 参照）</li> <li>・入居者自身で防災靴を履きヘルメットをかぶり、懐中電灯を使って玄関まで避難してくる。</li> <li>・負傷して逃げられなかった人を決めておき、笛で自分の存在を知らせる。</li> <li>・香大生と地域の方々に救助に向かう。歩けないので抱えて階段を下りる訓練を行う。</li> <li>・3グループに分けて、約30分くらいの時間内でテント3張を張る体験をする。グループ内での協力や工夫が大切。</li> </ul> <p>2, 講演会—講師招聘による講演会と東日本震災時の実体験DVD鑑賞</p> <p>日時 令和5年2月1日（水）午前10時～12時</p> <p>会場 高松市福岡町2-24-10 市社協東館3階 コスモス園 会議室（コロナ対策につき定員30名）</p> <p>午前の部 午前10時～12時</p> <p>講師 岩原 廣彦氏（香川大学創造工学部客員教授）</p> <p>出席者 32名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者本人と保護者 11名</li> <li>・自主防災担当団体員 9名（仏生山地区4名日新地区4名）</li> </ul>

	<p style="text-align: right;">西植田地区環境安全部 1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害弱者安心ネットワーク 3名</li> <li>・相談員等 9名</li> </ul> <p>内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師による講演 スクリーン パワーポイントを使用しての説明など</li> <li>・演題 「大災害時における要配慮者の備えについて」 ～災害弱者（知的障害者）支援のポイント～</li> <li>・質疑・応答</li> </ul> <p>午後の部 12時～14時</p> <p>東日本大震災時、障害者施設における避難や地域の方々との関わりを、実体験に基づき描いたドキュメンタリードラマのDVDを鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害を自分ごととして捉えてみる。</li> </ul> <p>※計画当初の「個別避難計画」策定の相談に応じるの項目は、本会が高松市より受けている療育相談の相談員自身が未だ十分に準備ができていないこともあって今回は見送りとなった。</p>
--	---

<p>事業実施の 効 果</p>	<p>1 避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆呼びかけだけでなく、個別にお願いすることで協力が得られることがわかった。自治会の皆様とは日頃も親しくしていただいているつもりではありましたがさらに個別に呼びかけることが大切。</li> <li>・今回は、自治会の方々には、暗幕張りや救助の訓練でホームの居室迄入って貰いました。訓練が終わる頃には、「困ったときはお互い様だから。私たちもお世話になるかもわかりません」の言葉をいただきました。</li> <li>・すぐ裏の会社に、当日駐車場を使わせていただきたい旨のお願いにしても快諾を得られた。「近所だから・・・」の有難い声掛けを下された。</li> <li>◆けが人救助訓練の香大生は身体屈強な男子学生であったが、一人二人ではけが人を抱えて助け出すことはむづかしい。やはり4～5人は必要だと分かったと言われてもう一度活動内容を工夫したいとの感想でした。</li> <li>◆テント張りは意外に手間がかかるものですが、協力の賜物かほぼ予定の時間で立てられた。入居者・世話人にとっては3回めの経験である。</li> </ul> <p>2 講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆災害時にあっては、避難するにも障がい者等支援の必要な弱者が周りにいることを、広く一般の方に取り敢えず知ってもらうことが出来た。</li> <li>・当日は、NHK 高松放送局が取材に訪れ、令和5年2月1日《ゆう6かがわ》で放送された。</li> <li>・明けて、2月2日に高松市の社会福祉協議会地域共生社会推進室の担当者が「ゆう6かがわ」を見たからと問い合わせに来られました。うっかり社協にはご案内をしていなくて、先方から関心ごとである事を知らされました。今後は情報交換を行うことを約束しました。</li> <li>◆思いもかけず電波に乗ることで、関心のある人達とつながりが出来たのは大変心強いことである。</li> <li>・その後2月6日（水）、岩原教授が本会を訪れてくださり、当日の課題として見えてきた個別避難計画や避難所に於ける福祉ゾーンのこと、また福祉避難所は本当に機能するのか等を、今後は深掘りしていこうと打ち合わせを行った。</li> <li>・上記深掘りの件に関して2月10日（金）NHK 記者が追加取材に来られた。岩原教授、災害弱者安心ネットワークの会長・事務局長・本会から3名を交えて約2</li> </ul>
----------------------	---

	<p>時間の取材を受けた。今後 この取材が、例えばシリーズ番組として取り上げられるかどうかは未定である。</p> <p>◆その他 講演会にご参加くださった仏生山地区・日新地区の自主防災組織様 西植田地区環境安全部の方々とも今後も防災についての協力が得られたことは、予想以上の広がりであり成果であった。</p>
<p>備 考</p>	<p>この災害時個別避難計画作成は、令和3年度より市町村の努力義務となった。本会当事者団体としても、やっと緒に就いたばかりであり、来年度も続けて取り組みたい。</p>

(注) 枠内に記入できない場合は、枠を広げて記入ください。A4版であれば、複数枚になっても結構です。

(別紙2)

## 事業実施のスケジュール

年 月	活動内容	対象者	参加者数
令和3年6月	講師依頼 と実施日決定 1, 防災避難訓練 高橋真理氏 (香川大学 四国危機管理教育 地域連携推進機構) 教官 実施日 令和4年11月20日(日) 午前9時30分~12時 場 所 高松市六条町1388-2 GHみんなの広場『六条』と西側駐車場	講師	2名
同10月	講師と再打合わせ細部決定	講師	2名
同10月21日(金)	GH 世話人会にて当日の担当・会場設定準備物など打ち合わせ。	入居者 GH 世話人	6名 11名
同11月20日(日)	1, 防災避難訓練実施日 日 時 令和4年11月20日(日) 午前9時30分~12時 場 所 高松市六条町1388-2 グループホームみんなの広場『六条』 参加者 43名 香川大学高松市機能別分団 (小松・中村・勝浦・松家・小池・土岐さん)	GH 入居者 GH 世話人 自治会員 (六条町乾北) 香川大学 指導教官 学生	6名 11名 19軒 1名 6名
同12月9日(金)	反省会 GH 世話人会で反省会をもった。	入居者 世話人	6名 11名
令和5年1月13日	本会広報紙「みんなの広場」に訓練の様子を掲載	会員と訓練参加者	270部
令和5年2月1日(水)	2, 講演会—講師招聘による講演会と東日本震災時の実体験DV鑑賞 日 時 令和5年2月1日(水) 会 場 高松市福岡町2-24-10 市社協東館3階コスモス園会議室 午前の部 午前10時~12時 講師 岩原 廣彦氏(香川大学創造工学部客員教授) 出席者 32名 ※ NHK 記者 カメラマンによる取材	・障害を持つ当事者 保護者 ・地域の自主防災担 等部会の 方 ・相談員等 記者 カメラマン	11名 12名 9名 1名 1名

	<p>午後の部 12時～14時 東日本大震災時、障害者施設における避難や地域の方々との関わりを、実体験に基づき描いたドキュメンタリードラマのDVDを鑑賞する。災害を自分ごととして捉えてみる。</p>		
同2月10日	<p>3. その他 災害避難時要支援者問題深堀取材—NHK 記者 場所 高松市福岡町 市社協3階 本会事務所にて</p>	<p>記者 1名 岩原教授 1名 災害弱者安心ネットワーク 2名 本会 3名</p>	
同2月13日	<p>本会広報紙「みんなの広場」に講演会模様を掲載・参加者に配布 会報NO 261 p6 P7 参照</p>	<p>自主防災・相談員等も含む 会員・参加者</p>	270部
同2月15日 (水)	<p>GH 世話人会にて反省会</p>	<p>世話人会</p>	12名

(注1)いつ、どこで、何を、どのように、どのような体制で実施したかなどを、詳細に記載してください。

(注2)企画、準備、成果確認や実施後の振り返りなども含めて記載してください。

(注3)対象者や参加者数など事業の規模等が分かるように記載してください。

(別紙3)

## 収 支 精 算 書

【収入】

(単位：円)

項 目	金額	説 明
NPO基金補助金額	★121,000	
自己資金計	14,505	①+②+③+④
① 参加料収入	0	
② 会費等	14,505	法人会計上支出
③ 寄附金等	0	
④ その他	<del>14,505</del>	※内容を具体的に記載してください。
その他助成金等収入計		①+②+③
① 助成金収入		
② 託金収入		
③ の他		※内容を具体的に記載してください。
その他資金収入		
合 計	135,505	

(注) その他助成金等収入はNPO基金以外の助成金等を受ける予定がある場合に記載してください。

【支出】 ※ ①～⑫は領収書番号です

項 目	金額	うちNPO基金 補助金充当額	説 明 (用途、積算根拠等)
講師謝礼	60,000	60,000	訓練 高橋真理氏 30,000 ① 講演会岩原廣彦氏 30,000 ②
香大生交通費	12,000	12,000	2,000×6名 ③
会場設営費	<del>13,350</del> 12,030	<del>13,350</del> 12,030	暗幕シート等 7,304 ④-1 4,726 ④-2
	1,320	1,320	手指消毒薬 ④-3
参加記念品	20,450	20,450	災害避難時に便利なペットボトル 仕様のグッズを購入 ⑤-1
同 送金手数料	385	385	⑤-2
// 電池	2,090	2,090	懐中電灯用電池を追加 ⑤-3
// 呼子	550	550	グッズに追加 ⑤-4
// ホイッスル	220	220	グッズに追加 ⑤-5
防災スリッパ	19,580	10,000	(9,580円は法人負担) ⑥
水分補給用 水	1,200	1,200	訓練会場設営時水分補給用 ⑦
同	500	500	会訓練場設営時水分補給用 ⑧
同	414	255	講演会用 ⑨
DVD借用費	1,000	0	災害弱者安心ネットワークより借用 ⑩
駐車場お礼	850	0	避難訓練時駐車場借用の会社へ ⑪
講演会場・機器使用の御礼	2,916	0	講演会会場へお礼の品 ⑫
合 計	135,505	★121,000	

★の金額は一致するようにしてください。

(注) 補助申請事業についての収支精算額を記入してください。